

2004.12.21 一新塾会合

場所：伏見 NPO センター会議室

参加者：近藤（事務局）、加部、山下、近藤裕己、鈴木、岸本、宮田（記）／敬称略

内容：

1. 2004年総括（加部さん）

- 再度「Social Innovation」を説明、再認識
- 市民が決める税金の使い方（近藤プロジェクト）

加部より、以下の報告があった：

本プロジェクトは生活者主権実現に直結する意味あるもので、今年具体的進展があった。又、社会企業のビジネスモデルとすべく、以下のステップを踏む；

1. 論文を11月に作成し、慶応大学の跡田教授に諮ったところ全面的に賛同され、協力も得られる事になった。
2. 来年3月のNPO学会で論文発表する予定。
3. 評価ソフトなどにつき、特許申請の準備を開始した。
4. 本プロジェクトは社会企業のモデルになる可能性が見えてきた。

○ サービスロボット関連（加部さん）

- ・ これから産業ロボットからサービスロボットへロボット産業は展開される。
- ・ ユビキタス社会の市況規模は19.8兆円、国家予算は800億円
- ・ IBMの売却はパソコンの時代は終わった事を意味している⇒これからコンピュータは組み込み式の時代
- ・ 自動車がロボットになることは、自動車会社の相次ぐロボット開発をみても明らか
- ・ 今後の動きとして、世界初サービスロボットの安全基準の認証審査を愛知万博にて行う（NPO安全工学研究所）⇔ドイツの世界的な審査期間と協働
- ・ 社会事業の新たなモデルとなるのではないか。

2. 税プロジェクトの総括（近藤さん）

- ・ 去年の8月、予算書解体の本を見、行動を起こした
- ・ 税金納付者の権利を切り口に、市民を巻き込み、納税者が使い道を決める仕組みとつくるのが目的
- ・ 2005年は数カ所での勉強会が予定されている。

3. 各自の抱負

○ 宮田

- ・ 又新たな企画をだが、どこかの出版社へ企画書を出してみれば反応が出るが、現状未完と思う。又新たに出すよりも、税のプロジェクトと一緒にこなすようにした方が、実践経験が蓄積されるので良いと思う。（加部さん）
- ・ 「ソーシャルイノベーションにむけて」に似たような内容は白書をみれば分かる
- ・ 「六つの箱」を埋めなさい（近藤さん）

○ 鈴木さん

- ・ 2005年は積極的に参画したい。
 - 岸本さん
 - ・ 仕事が忙しく、また体調もあまり良くなかった。
 - ・ 社会から距離を置いていた期間があったがこのままではいけないと思っている。協力できるところは協力したい。
 - 山下さん
 - ・ 来年の抱負として「条例の制定」「議員になる若者の育成」を行う
 - ・ 一新塾には実験の場を提供することでも協力したい
4. 一新塾の展望（事務局近藤さん）
- ・ 主体的市民憲章を作成した
 - ・ 今後の展開として本校、名古屋校、大阪校と呼べるものをつくりたい（固定の場をつくる訳ではないが、ワークショップなどを盛んに行っていきたい）
 - ・ 現場主義、プランニングシート、チーム活動をベースに塾生の行動を促す
 - ・ 通信科が右肩下がり、新しい塾生が入ってこないとはじまらない。16期は20人の新規入塾が目標。⇒認知を高めるために名古屋組の協力とプロジェクトの活発化を求める
 - ・ 大阪校は実験的に動き始めている（=テーマは豊中市に対しての市民のマニフェストづくり）
 - ・ 名古屋の拠点づくりに関連して、今後名古屋での行動、名古屋組との連携にも力を入れていきたい。
 - ・ 一新塾名古屋のワークショップの案内（1月15日に愛知芸術文化ホールにてあります、OBの方も参加ください）

次回から第二木曜日に定例会を行います。

今回は1月13日（木）18:00～21:30、伏見NPOセンター会議室にて